

蓮舫体制正念場に

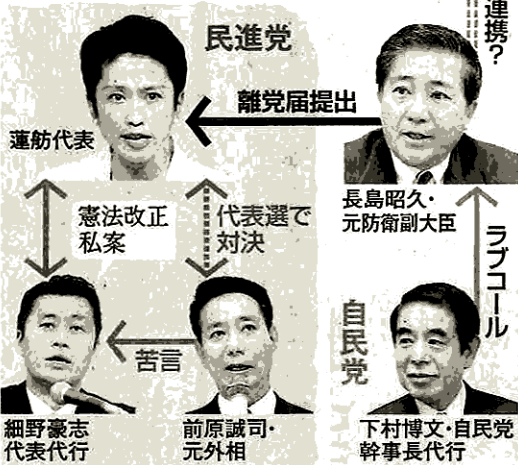
民進、長島氏を除名へ

民進党の蓮舫体制が揺らいでいる。離党届を出した長島昭久・元防衛副大臣(比例東京)の除名方針を決めたほか、執行部の細野豪志・代表代行が党方針とは違う「憲法改正案」を発表。政治決戦となる7月の東京都議選を控え、蓮舫代表は正念場を迎えている。

「空白区になったんだから、徹底的にやりませよ」と蓮舫氏は10日、長島氏の離党届提出に対し、周辺に怒りをあらわにした。自身

の参院議員からの衆院選転出先として、長島氏の選挙区(東京21区)からの立候補も検討する意向だ。野田佳彦幹事長はこの

揺らぐ蓮舫体制 関連図



日、国会内で長島氏と向き合った。「何で今なんだ」。共産党との共闘に不満を持つ長島氏には、何度も説明してきたの思いからだ。離党届は受理せずに、「比例復活で当選しており、議員辞職が筋ではないか」と言い、その後の党執行役員会で除名処分とする方針を早々に決めた。長島氏が離党表明会見で重ねて批判した野党共闘についても、野田氏は会見で「変えるつもりはない」と言い切った。

細野氏は改憲私案

蓮舫氏にとってもう一つの悩みが、執行部の一員である細野氏の動きだ。10日発売の月刊誌「中央公論」に改憲私案を発表。記者団に「我が党が提案型政党になる最後のチャンスだ」と語った。蓮舫氏が代表就任以来、唱えた「提案路線」を意識した発言だが、高校までの教育無償化明記などを訴えるその内容は、蓮舫氏の考えとは食い違ふ。

むしろ蓮舫氏は先月の党大会で、「教育無償化実現の最大の課題は財源。憲法改正が必要との主張は、これをこまかすかのように見える」と細野氏にクギを刺したばかりだった。

表明しながらも、「あらゆる可能性は追求していきたい」と含みをもたせた。民進党の都議選公認予定者のうち、長島氏の元秘書はすでに離党届を出し、小池百合子知事を中心とする地域政党「都民ファーストの会」の公認予定者になっ

た走る細野氏に対する党内の視線は冷ややかだ。蓮舫氏と代表選で争った前原誠司元外相でさえ、「意見は党の憲法調査会などで言われるのがいいのではないのか。離党者も出ている中、党がバラバラと見られることがないようなマネジメントが求められている」と苦言。党憲法調査会の枝野幸男会長も「(私案の)存在自体を無視します」と不快感をあらわにした。

喜んでいるのは、これまた自民党だ。党憲法改正推進本部の保岡興治本部長は10日、記者団に「細野さんのような立場で意見が積極的に出てくることは素晴らしい」と歓迎した。

代表代行の職務にありながら、「個人プレー」にひ

(岡本智、斉藤太郎)